第１ｽﾃｰｼﾞ あいさつ名人

【１年】日置叶夢、石津幸音、鈴木獅音
【２年】柴田蒼空、佐藤史菜、伊藤杏華、大石朔也、太田悠惺、桑原拓海、澤井　隼、菅沼果歩
【３年】井口愛斗、岡本侑士、栗原煌月、鈴木健志、髙井梓沙、西澤美帆、山本朱音、横山真奈、福田芽衣、鈴木楓茄、大石隆平、大石啓斗、大石朔也、柴田陽和、大石咲由希、佐野文音
【４年】市川令也、田代吉哉、瀧井　空、松本航輝、市川愛海、柴田優良、横山琉希、荻原拓実、加藤大河、平松未季、山下聡哉、赤堀耀一、横山幹太、若松拓希、鈴木優來
【５年】石津達也、藤田翔伍、伊藤里華、髙﨑苺子、鴇澤千祥、松原叶夢、芳野実里、稲垣百恵、横山紗知
【６年】大石　龍、井上瑠久、半場莉緒、佐々木拓斗、松本幸大、岡本瑞樹、髙橋悠也、林　紘正、森下紗羽、山崎裕夢、山田　涼、　森下　颯

野菜の苗をいただきました



南番町にお住まいの松本様（写真右）から、ミニトマトの立派な苗をいただきました。大切に育てたいと思います。ありがとうございました。

こちらSNE相談室

※ SNE：Special Needs Education
（特別支援教育）

日本経済団体連合会(経団連)の調査によると、新卒者の採用選考時に重視する要素は 11 年連続で「コミュニケーション能力」が第１位なのだそうです。文部科学省でも「コミュニケーション能力」を高めることが重要であると考えています。では、「コミュニケーション能力」とは、いったいどんな能力なのでしょう。

簡単に言えば、「人とうまく″やりとり″できる力」だと思います。この″やりとり″の主体は、やはり「言葉」を中心とした互いの「表現」と言えるでしょう。しかし、それだけではうまく″やりとり″することはできません。その「言葉」や「表現」の向こう側にあるもの、すなわち、その人が生きる「環境」「文化」「民族性」、更には「個性」等々といったものも考慮して″やりとり″しなければ、コミュニケーションはうまくいきません。この「言葉」や「表現」の向こう側にあるもののことを「コンテクスト」と言うのだそうです。

劇作家であり、大阪大学教授である平田オリザさんは、その著書の中で、この「コンテクスト」に欧米と日本ほどの「違い」がある場合は、注意深くなるが、近隣国で文化が近い場合、その「ずれ」が摩擦を起こしてしまうことがあるとおっしゃっています。例えば、日本語と韓国語は、同じように敬語の発達した言語なのですが、韓国では、１歳でも年上の方には敬語で話しかけなければならないので、男女間であっても挨拶の初期段階で年齢を聞き合うのだそうです。日本人にとっては「えっ？」と思うことですが、韓国では年齢を聞き合わなければ、「コミュニケーション」が始まらないのです。



この「コンテクスト」の「ずれ」が、支援を必要とする子どもたちを苦しめていることがあります。計算は得意なのに図形の理解が難しい子、自分の意思に関わりなく衝動的に動いてしまう子や相手の気持ちをくみ取ることが苦手な子は、見た目には分かり難く、大人たちには「ずれ」程度にしか感じられません。そのため彼らは、その「言葉」や「表現」だけを評価され、叱られることが多くなりがちです。叱られることで子どもたちの「自己肯定感」を低下させないために、大人は子どもたちの「コンテクスト」に思いを馳せ、理解しようとする「コミュニケーション能力」を高めていく必要があると思います。

（特別支援教育コーディネーター：田中）